

平成29年度 宣真高等学校 学校評価総括

1 めざす学校像

仏教的な慈愛の精神を基調とした、他者への思いやりを実践できる女性を育成するとともに、社会において自主的・自立的に活躍できる女性となるためのキャリア教育の充実を目指す。生徒一人一人の個性、適性をよりよく伸ばし、生き生きと自己表現できる教育環境を整えたい。規範意識、公衆道徳、マナーの面において他者の模範となるような生徒を養成して、地域から信頼される学校でありたい。

2 中期的目標

1. 学習指導の補強

- ①学習到達度の低い生徒への対応として、各学年ごとに定期考査の一定期間前から勉強会を設け、継続的な指名講習、希望者対象のまとめ講習を常態化する。
- ②コース・エリア独自に設定した授業、設定科目を見直して、希望する進路に寄与する知識・技能を習得させる。

2. 進路指導における自立心の育成

- ①1年次から将来的な展望を探らせるために、職業体験や職業セミナーといった外部の催しに積極的に参加させて、多様な職種と自己の可能性について考察する機会を作る。
- ②教室外登校生や不登校生の転学・退学率を下げ、カウンセリング室対応等を通じて、学習・行事参加・進路保障の設定をより有意義な形にする。

3. 安全指導の強化

- ①痴漢・自転車事故・薬物被害、ネット犯罪等に遭わないよ、起こさないように防犯意識を高める。
- ②「いじめ」につながるトラブル・誹謗中傷を起こさないように、情報モラルと人権尊重を高める。

4. 教育支援活動の効率化

- ・学習、学校活動において困難な事由を有する生徒について、特に他の機関、組織と情報交換を行い、対象生徒の円滑な学校生活につながるような協力体制を合理化する。

3 本年度の取組および自己評価

中期的目標	今年度重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	達成状況と自己評価
1 学習指導の補強	①学習到達度の底上げ、欠点補習の定着	①課題や宿題を効果的に実施したり、各学年で、欠点保有者と科目を調査して、科目担当者を学年団からおのの選び、補講教室と時間割を組んで生徒に公表する。まとめ講習は希望制で受け付ける。	①宿題の設定状況、呼び出し補習の実施期間、指名生徒参加率、考査での欠点回復率、懇談時の保護者からの評価	①考査前に成績不良者対象に根気強く教科別講習を行っており、考査での成績上昇率も6割程度と前年度より下降気味の成果となったが、指名参加率は引き続き良好で、保護者からの満足の言辭も懇談ではよく聞かれる。一方で、理解度が高い生徒のためにもなんらかの手を尽くそうという意識はあるが実践の効果は未確認。また授業中の居眠り・私語への注意指導やチャイム同時入室も前年度より高まっており、この点についても生徒保護者からも好評価を待ちたいところである。
	②コース・エリアの特色作り	②コースやエリアのガイダンスを行い、それぞれの目標と意義を生徒に強く認識させ、効果的な内容を精査する。	②各教科、各コース、各エリアの行事や計画策定、選択講座の見直し、放課後講習の策定	②コース別のガイダンス、外部での説明会、コースセミナー、大学短大別のバスツアーの計画などを同規模で実施できた。大学、専門学校講師を招いてのガイダンスも安定定着した。エリアの選択講座の見直しも図り、生徒の要望に合った講座に整理した。看護系コースの予備校と提携しての課外授業は好評である。パティシエコースの農園での稲作作業も次年度は予定している。有意義な体験型学習などを計画したい。
2 社会的自立心	①進路・職業に対する意識付け	①1年次校外の職業体験セミナー、進学相談会などに連れて行き、職種と勤労の意義を学ぶきっかけとする。進学・就職に向けての意欲を底上げし、進路未決者を減らす。ハローワークとの連携による筆記・面接対策の策定。	①実施回数、取組状況、進路決定率、面接練習の希望度	①池田市民文化会館における各学年ごとの進学ガイダンス職業体験セミナー、外部進学相談会に生徒を引率参加。大小内外合わせて20回開催の達成状況。結果、進学決定者は大学が昨年度比同数、短大3人減、専門学校2名増。就職決定者はほぼ同数。進学に対する意識付けは好結果だが、面接における問答に自信のない生徒が多く、面接練習の志願者が近年増加し、対応が大変な現状である。

<p>の育成</p>	<p>②不登校生への対応と進路保障</p>	<p>②段階を踏んでのカウンセリング室生の認定、学年における配慮生の選定、カンセリング室担当者の引率により、教室外登校生を各種進路ガイダンスに参加させる。校外学習、文化祭、体育祭等の学校行事にも進んで参加するよう誘導する。</p>	<p>②カウンセリング室生の行事・ガイダンスへの参加度、進路決定者数、カウンセリング体制のルール見直し</p>	<p>②カウンセリング室生同士の関係の調整、配慮生の選定については適切に行われている様である。行事参加状況も同室担任の引率の下、可能な限りの参加がなされ、進路決定も本人の希望に沿う状態であり、呼び出し講習も実施できている。一昨年よりの担任2人制は、外部研修も交替で参加することが可能となり、カウンセリング部門の最新の知見を反映できている。</p>
------------	-----------------------	---	---	---

<p>3 安全指導の工夫</p>	<p>①防犯・無事故につながる指導の徹底</p>	<p>①少年サポートセンターによる薬物講習、痴漢対策講習、薬物講習、また自転車の安全運転の講習の実施。長期休暇に入る前の各終業式での注意喚起のための訓示。</p>	<p>①実施内容、実施回数、講師、被害件数</p>	<p>①薬物講習、痴漢対策講習、自転車事故に関する交通安全講習を警察関係者や自動車学校を講師に招いて実施。プロジェクターや寸劇を交えての講演は、生徒にわかりやすい工夫がなされており、事後のアンケートでも好評であった。しかし日常の不注意による打撲捻挫骨折は後を絶たず、生きる力にも結びつく「注意深さ」「予見力」を軸に安全指導を組み立てる必要を感じる。</p>
	<p>②友人間トラブルを起こさない指導</p>	<p>②全体での情報モラル講習の実施。各学年の全体集合による、不用意な発言(SNS)の自制についての訓示を各学期に実施。</p>	<p>②生徒指導事故の発生率、学年指導内のトラブルの状況、SNSルール順守・違反の現場状況</p>	<p>②情報モラル教育と人権教育は学年別に全体HRで講師を招いて実施。情報モラル教育はいまや毎学期学年HRで行われていると言っても過言ではない。精神の未熟さ、他者への同化配慮の欠如はスマホ使用を介した生徒間トラブルの温床である。常に生徒間の人権意識を高め、教員に相談しやすい雰囲気作りと、いじめの芽の早期発見に努め続けたい。</p>

<p>4 教育効率化支援活動の</p>	<p>支援学校との連携</p>	<p>豊中支援学校への相談、コーディネーター派遣要請、校内支援委員会との会合・連携</p>	<p>相談対象生徒の個別指導案と教育支援教育案の完成度、保護者・担任・学年団との意思統一の割合・対象生徒家庭の満足度</p>	<p>担任学年とCR係教員が対象生徒・保護者とのかかわりや言動について、逐一記録を取っていたおかげで齟齬なく、派遣コーディネーターとの相談も「解決」する『目的』のための「分担」、という枠を明確にして臨んだので、話がブレることなく支援についての計画方針がまとまった。事前準備がスピーディーさを生むと実感した。</p>
-------------------------	-----------------	---	--	---

4 学校関係者評価

学校関係者は自己評価の結果を踏まえ、次のように評価している。

- ①呼び出し補講は引き続き継続してほしい。成績が低迷したままの生徒を見過ごさないという学校の姿勢は評価できる。「勉強会」を受けることで、考査後の学習内容のステップにもスムーズにつながると思われるので、たいへん有意義だと思われる。
- ②授業進度、内容のレベル、課題の量について不満を感じている、潜在的な理解度の高い生徒の期待にも応えられるような授業を工夫してもらいたい。
- ③授業中にまじめな姿勢をとっていない生徒は、心理状態や家庭状況などに原因があることも考えられるため、画一的に厳しくたしなめることで終わらず、注意後のフォローや担任その他の情報交換を通じて、その生徒が平常心で臨める環境整備に協力してあげてほしい。
- ④特色あるコースの授業やイベントは、生徒がとても意欲的になり特別感を感じているようだ。満足度の高い授業設定を今後も数多く案出してもらいたい。
- ⑤放課後の希望者講習の設定は評価できる。その成果についても客観的な評価が望まれる。
- ⑥進学、就職についてのガイダンスは有意義と思われ、人気学部・学科や人気職種、有望な方面というのは、時代により変化のあるものだから、これからも毎回最新の情報を生徒に提示してほしい。
- ⑦就職希望者への対応、講師による研修、夏休みの登校指導などは意識付けの観点から、高く評価できる。
- ⑧女子高なので女子ならではの危険とその予防対策について、よく啓蒙・講習がなされていると評価できる。
- ⑨スマホ等SNSを使っての友人間トラブルや誹謗中傷について、保護者も学校の方針に歩調を合わせて、家庭でもしっかり注意指導しないと、なかなか事故発生数は減らないと思われる。
- ⑩いじめの早期発見と事後の関係生徒への心のケアを、引き続き間違いのないように指導してほしい。
- ⑪支援計画については、関係機関と緊密な情報交換を行い、本人にとって望ましい学校生活となるように教員間ネットワークが有効に機能している点は頼もしい。あらゆるケースにおいて積極的に、対応してもらいたい。